FIWC

Friends International Work Camps
関東委員会
with S.C.I (Service Civil International) Japan

定例委員会報告

2000.11

参加者：西尾雄志・小河原英貴・目黒美穂子・峯岸直寛・豊田兼宇・豊田素子・中元則子・河田幸子・小野浩平
奥村浩毅・松永亜矢子・宮本久美子・定政香織・中村卓磨・岩上真弓・田中宇宙・浜島恭子・茂木亮
青山哲也・蒲公英・鳥居厚志・一色崇典・伊藤祥江・伊藤瑠美・東城文柄　以上25名

2000年11月25日（土）目黒鍼療院にて。

担当：西尾雄志

FIWC関東委員会の呼びかけで、SCI-Japanと合同で行っています。

活動報告

司会（西尾）この集まりは何かというと、FIWC関東委員会という団体とSCI-Japanという団体があって、合同で活動報告しています。それを定例委員会報告として200人くらいに送付しています。今日の報告はネパールキャンプ、フィリピンの下見、バングラディシュの下見になります。

大分・耶馬溪キャンプ（FIWC）

10月の第2週。参加者のべ4名のみ。キャンプというよりホームステイという感じで、ワークは稲刈りと鶏の玉子磨きでした。山間の美しい村で有機栽培をしているFIWCのOBの鈴木さんの家に泊まっています。次回の耶馬溪キャンプの予定はおそらく5月連休。

目黒美穂子

フィリピンキャンプ下見（FIWC関東）

マハイハイという村でワークをすることに決定。村が丘の中にあって、丘の頂上にある小学校には水がない。水のある場所と学校にポリタンクを設置し、パイプで繋いで水を供給するプロジェクトを行う。問題は下の土地が小学校の土地ではないことだったが、村のリーダーと交渉して解決した。小学校に宿泊。期間は2週間。参加者20人の予定。年内には参加者を決定する。キャンプの形態が地域密着型で村人と個人個人の関係が出来ることがこのキャンプの良さと思う。前回のキャンプで泊めてもらった人の伝手でこの村がキャンプ地となった。

中村卓磨

フィリピンキャンプ 日程：2001.2.20～3.6

参加費11万円（予定）

問い合わせ先：近藤剛史（リーダー）

ネパールキャンプ（SCI）

2000.10.20～11.3

17名参加。知的障害者のための学校を建ててきた。

ワーク作業風景。レンガを積むキャンパーたち。

FIWC関東定例委員会報告

ネパールキャンプ（1ページより続く）

マナブビデアグラ（土地の名前）学校。この学校は一年前にSCIネパール（？）が途中まで建て、その後資金不足のため放置してあったもの。建設途中の学校プロジェクトをこのキャンプのワークとして引き継ぐことになった。今後は校舎2階を建てるための資金が必要で、最終的な構想では一般の子どもの学校を立てたいとのこと。長いワークになりそうだが、ネパールキャンプとして完成まで見ていきたいと思う。（ネパールキャンプ参加者の感想は後述。）

宮本久美子

障害をもったちびっこたちの運動会の表彰式。

バングラデシュキャンプ下見（SCI）

時期は2月。ワークは井戸とトイレ作り。小学校の校庭を借りてフェスティバルをやろうと思います。今のところ9人問い合わせが来ている。キャンプ地はダッカ（電話があるところ）から船で1日以上かかる場所で電話がない。キャンプ中は連絡が取れないので。参加者は家族に事前に了解をとる必要あり。

バングラデシュキャンプ日程　2001. 2.14～28

問い合わせ先：鳥居厚志（リーダー）

鳥居厚志

忘年会やります！

12月中に忘年会を開きます。2000年の最後に朝まで盛り上がりましょう！詳細は未定ですが、12月の第2週の週末あたり。六本木のインド・ネパール料理のお店「Devi」にて。会場費と料理を合わせて1人2000円の予定。お酒などの飲み物は持ち寄ってください。お問い合わせください。

蒲公英

意見交換・ほか

ネパールキャンプ感想

●リーダーとしての感想　宮本久美子

カトマンズから近く、バスで40分。日本への電話は1分170ルピー。ワークとしての重要度が当初思っていたより高く、プレッシャーを感じた。ワークが多すぎたが、間3日間休憩を挟めて、ネパールのことも知ることができた。ネパールの人は10名ぐらいが立ち代り参加。地方からきたSCIネパールのキャンパーも一緒に泊まった。

ワーク帰りにお店に立ち寄るキャンパー。

●ワークキャンプに参加した人の感想

小野「良かった。問題なかった。日本人と付き合うのと余り変わらなかった。向こうで髪を50ルピーで切った」

*トイレの説明、和式に近い水洗便所。紙は流さずに焼いた。

奥村「海外も初めて。一つの場所に二週間も滞在していたので、子供と親しくなった。食事は良かった。腹は毎日下した。現地の人とは主に日本語とゼスチャーで話した。」

松永「キャンプは3回目。スタッフとして一番考えたのは自由と自主性と自分勝手の違い、ワークに参加するしないは自由と言っていたが、実際には終わらせなければならないワークの量が多く、ノルマとの関係は大変だと思った」

岩上「日本でできないことが出来てうれしかった。寝袋で寝て、ご飯や風呂でも。昔使っていた学校で泊まり、風呂は、女性は村の人の家の水シャワー。食事は地元のボランティアとKP」

定政「旅行は多く行くが、こういう形でないと地域の人というのは見えてこないなと感じました。料理が好きで、水や米にごみなどが入っていて、日本人がバタバタ倒れていたので日本食を作った。全員同じものを食べる方針だったのでみんなにも出したが、向こうの人は異国料理になれていなくて、『味がしない』と不評だった。肉じゃがを作るのに牛は食べないので豚肉を求めたら、『豚肉を食べるのはロー・カーストの人だ。僕のおじいさんは豚肉を食べるような人は家に入れないよ。』と言われた」

●SCIのワークキャンプの進め方についての意見

西尾「ずっとワークキャンプやってきたけれど、ここまで規模の大きいプロジェクトは初めて。しかしお金のことでもめた。今回SCI主催で、SCIのやり方＜渡航費自己負担、ネパールのSCIに一人当たり75$払って終わり＞ということでやるはずだった。全体金額の40%がSCIネパールの組織費に使われる。それではワーク費用が絶対的に不足する。普段のやり方としてはワーク費用のかからないワークをするか、寄付を募ってやるということだったが、SCIネパールは金策に励まなかった。SCI中央メンバーと地域メンバーとの意思疎通がうまく出来ていなかった。こちらは中央メンバーと交渉して75$でやっていくことになっていた。地域メンバーにはその話が通っておらず、日本側が出すと思っていた。20万円位の寄付を地域メンバーが急遽募り、慌てて日本側のリコーからの助成金10万円を足した。今回のワークで10万ルピーを使っていて、残った寄付金を先方が今後このプロジェクトに使うつもりかどうかをSCI日本代表が確認してもらいたい。」

豊田兼宇「この機会にSCIのシステムについて説明します。ヨーロッパの参加者は75$程度（国によって違う）を自分の国に払うことで、他国への参加費（食費・ワーク費も）を払う必要がないという制度をとっている。しかしアジアの国にはストックがないので、参加者は自国にも払い、またアジアの国にも参加費を払っている現状。数年前にヨーロッパと暫定的に決めた。SCIはワーク費を払わないのが原則。費用が必要な場合は支部が資金調達する。」

豊田素子「前回山梨キャンプのヨーロッパからの参加者は食費を払っていない。日本支部が払っている。国によってやり方が違っている。その国の事情によって行われることを尊重している。」

西尾　今までのキャンプとSCIとの違い。フィリピンキャンプでは、もともと組織的にやってきたものを止めて私的なものに変えてきた。しかし今回のネパー

ルキャンプはSCIの方式に従った形で行った。

西尾　今回はチケット費用を多く見積もったために残金がある。その金をキャンパーに返すべきか、学校プロジェクトに使うべきか。郵便局の助成金を申請するつもりだが、SCIネパールキャンプとしてもっているべきか。

蒲　返すべき。航空券として集めた費用は航空券。流用すべきではない。

青山　キャンプを準備してきた人たちは自腹切ってやってきた人もいる。そのための基金を何%か残していくことも考えてみては。

一色　長いこと話し合ってみんなが納得して話し合う方がいい。こういう場では言い辛い。

田中　金出した人が納得行く形になればいい。ここで決めるなら、金出した人が一言ずつ言った方がいい。

小野　もし余った金を次回に回して、次回は話し合って分けようということになったら不公平。

小河原　初めてなので多めにとって、始めからバックがあるという説明もあった。余った分は返していただきたい。

奥村　準備金だけは残しておいて、返してもらいたい。

松永　スタッフとしてかかった費用は極力請求書をとっておいて、割り切れない部分は事務局へ払えばいい。

宮本　リーダーの航空券代は参加費から出ている。日本の事務局もお客さんを接待したり費用がかかるのでそちらに充てたい。ネパールの人が日本に来る時の費用など、半分ずつ。

岩上　出来れば返してもらいたい。

定政　自分が参加できないものに寄付しても意味はない。ネパールの人にお世話になったから、彼らが来る時に寄付したいという気持ちはあるけれど、それはそれで寄付を募ったらいいと思う。

伊藤瑠美　ネパールの人に寄付をしてもいいけれど少し返って来てほしい。皆さんに任せます。

伊藤祥江　私は今月苦しいのでちょっとでも返ってきたらかなりうれしいです。

西尾　最終意見として全額返して、次回寄付を募る。

●ほか、SCI関連の話し

素子　（バングラキャンプのチラシにおけるSCIの解説文が違っていることについて）なぜSCIという名称のキャンプを行うのか。

一色　僕はSCIの一員としてSCIの活動を活性化するために行っている。

素子　ではなぜ話し合いをしないのか。なぜSCIを知ろうとしないのか。

一色　知る方法がない。知ろうという活動をしている。ロシアにいったのもその一つ。

どういう結果を得たかを素子さんに言うことでどういう効果がでるかわからなかったら、どうしてレポートが書けるんですか。僕はあの時のレポートは1日1日の活動報告を課されていてそれは書いた。そのことを素子さんに伝えましたよ。

中元　いつどこで何をしたか、それに感想を加えたものを出せばいい。

素子　台湾も出ない。バングラも出していない。ロシアも出していない。

一色　そうだとしても僕が何度も言っているのは分からないということで、どこでどうして何をやったかということを書いてくれて言ってくれたら、意固地になって断る理由はない。なぜやらなかったか、出すって言ったでしょう。出しますよ。僕は不思議なんですよ。こういう論争になるまで、意固地になる理由が分からない。要するにレポートを下さいといわれて、何に使うのかわからないのに出すのかわからない。僕はともかくね、今このSCIを乱しても何のプラスにもならない。後輩の彼にはキャンプを成功させてほしいと思っている。

中元　SCIのやり方とは違う。今の場合だとあなたのやり方を強烈に出していて、昔のやり方も考えて欲しい。（記録を取るのを止めたので以下略）

寄稿

ワークキャンプと定例会
西尾雄志

　ワークキャンプというものに足を突っ込んで、6年になる。その間、神戸、フィリピン、バングラデシュ、ネパールのキャンプに参加してきた。こんなにもキャンプに参加していると、よく人から言われる。

「よく飽きませんね」

「ほっとけ！」力強く、そう答えるようにしている。

しかし人からよく言われるのはそれだけではない。

「どの国が一番よかったですか？」ともよく聞かれるのだ。そんなときは優しく、

「うん、そね、飯を食うならネパール、写真を撮るなら（少女の）バングラ、昼間っから酒飲んで機嫌よくすごすならフィリピン、人間というものをとことん考えるなら神戸かな」

と答えるようにしている。

決して、ネパールはいくら断っても四六時中あっちこっち行こうと誘われるからウザい、バングラは、アイソ笑い一つせず四六時中ガンとばされてるのかと思うくらいじろじろ見られるからムカつく、フィリピン人は必ず約束をやぶるからキライだ、神戸はわけのわからん酒飲みのおっさんばっかで見てて人生、憂鬱になる、とは言わない。それぞれのキャンプや国のいいところを知ってもらって、そのキャンプに参加して欲しいと思うからだ。

しかし、その国やその国で行われたキャンプがどんなもんだったのかを人に伝えるのは、とても難しい。キャンプというのは、日常生活とは遠く離れた、異質な世界であるから、それを日常生活のコトバで伝えようとしても、やはりうまくいかないのだ。

結論を言えば、「それが知りたかったら、あんたも行ってみたらええがな」としか言えないのである。

　しかし、かといって、「それでよし」、とするわけにはいかない。そのキャンプに参加したことのない人たちに、そのキャンプがどんなものだったのか、どんなところが素晴らしく、どんなところが悪かったのか伝えることは、やはりとても大切なことだからだ。いい点も悪い点も含めた自分の中にあるキャンプの記憶を伝えあうことを通して、互いに自分が参加したキャンプが一体なんであったのかを問い直す機会になるからだ。キャンプというのはそのキャンプが終了すると、どうしてもそこで完結してしまいがちになり、その後にキャンプの経験を活かしていくことが難しいものだ。しかし、そんな完結し、楽しかった思い出でしかなくなってしまったキャンプを、もう一度日常生活の場で思い出し、そしてその意味を問い直してみることは、やはり重要なことなのだ。

　去年の忘年会で、「また、どかーんと定例会を復活させようではないか！！」と原田さんや田中兄たちと酒の勢いで盛り上がり、FIWC関東委員会がSCIジャパンとともに定例会の場を持つようになった。あの忘年会から、もう1年も経とうとしているが、あの時、定例会を復活させようと思ったのも、それぞれのキャンプに参加した人が、それぞれのキャンプの記憶を共有することのできる場が必要だと思ったからだ。当初は、「なんやかんや言ってもすぐに人が来なくなって、またなくなっちゃうんじゃないか」、と思っていたが、それでも定例会は一年持った。大したものだ。

　初めてキャンプに参加した人は、「定例会おいでよ」と言われても、なかなか行きにくいものかもしれない。だまされたと思って行ってみても、わけのわか

ネパールの少女　Photo: Takeshi Nishio

FIWC関東定例委員会報告

らぬおっちゃんばかりいて、わけの分からないコトばっかり聞かれて、ホント騙された、と思って帰ってきてしまうのがオチかもしれない。しかし、自分が参加したキャンプがどんなものだったか、そこで自分が何をして、どう思って帰ってきたのか、ということをそのキャンプに参加していない人たちに向かって伝えていくことは、とても大切なことだ。それによって自分の中で自分が参加したキャンプを問い直し、その意味を考えていくきっかけになるからだ。

同じように、何年か前にキャンプに参加した人も、いきなり定例会に誘われても、「そんな、いまさら･･･。行っても知ってる人は、キャンプ中、ろくにワークもしないで写真ばっかり撮ってた怠け者と、所沢のダメ人間くらいじゃないの」と思うかもしれない。それが事実であることは否定しないが、定例会の場で、初めてキャンプに参加した人や、現在中心的にキャンプに関わってる人たちと会うことを通して、その人も過去の記憶と化してたキャンプを、改めて思い出す機会になるはずだ。

ワークキャンプといういろんな可能性が秘められている出来事を、過去の記憶にとどめておくなんて、それはほんとにもったいないことだ。そんな埋もれたワークキャンプの記憶を掘り起こし、何らかの意味あるものへとつなげていく、それが定例会という場であればと思う。

ということで、皆さん、忘年会の季節です。FIWC関東委員会の忘年会がもうすぐあります。場所はらしくもなく六本木でやっちゃいます。最近のキャンパーは美男、美女ぞろいよん。不純な動機でみなさん、参加してね。

モグネット
www.mognet.org
ワークキャンプやハンセン病関連の情報満載！！

FIWC関東委員会会計より

年会費と口座開設のお知らせ

FIWC関東委員会の口座を開設しました。

年会費は3000円です。定例会報告の印刷・発送代や委員会の運営費は、年会費やカンパからまかなわれます。会計報告は毎年末に行います。

以下の方より年会費をいただきました。（敬称略）

角田ゆかり、平野敏彦

郵便振替 口座番号 00170-2-565117
加入者名：FIWC関東委員会

郵便貯金 記号10120 番号62574261
口座名義：FIWC関東委員会

次回の定例会

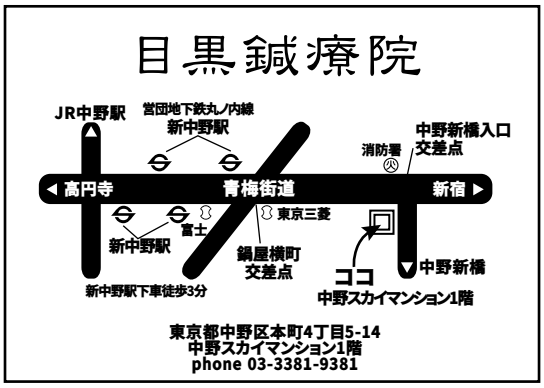
2001年1月20日（土）19時から
東京・新中野「目黒鍼療院」にて

担当：田中宇宙

文責：浜島恭子

PDF版では、個人の連絡先などを掲載しておりません。必要な方はお問い合わせください。

編集：茂木 亮　mog@mognet.org



定例会の会場としてお借りしている目黒鍼療院です。
カラダの調子の悪い人は診てもらったらいかがですか？